

令和元年度 第1回 世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 公開講座

「沖ノ島祭祀遺跡の調査と成果」

小田 富士雄

日 時：令和元年 7月15日（祝） 10:30-12:00

場 所：海の道むなかた館

沖ノ島 古代年表

時代	中国	朝鮮	事項	遺跡	出土遺物	西暦
縄文時代			北部九州の縄文時代はBC3000年以上にさかのぼる。近年の発掘の成果で、沖ノ島でも出土する管筒式土器（前期）が韓国釜山の東三洞貝塚で発見され、大陸との交渉の時期がいつそうさかのぼることが明らかとなった。		沖ノ島の生活遺跡は縄文時代前期にさかのぼる。本土と島の往来は、土器や石器などから、北部九州沿岸はもちろんのこと、瀬戸内沿岸からの往ききもあつたようである。漁に用いられた石器は鉄、銛等があるが、それらの原石は大分県姫島や長崎県腰岳の黒曜石が用いられている。	BC 3000
弥生時代	漢		○稲作文化の発生 ○漢武帝、衛氏朝鮮を滅ぼして楽浪郡（BC108）などを置く	唐古遺跡(奈良県田原本町) ○このころから支石墓が北部九州で作られる ○青銅器（銅剣、銅鐔など）の製造はここからか	○社務所前遺跡 ○4号洞穴遺跡	BC 200
		三国	○倭国、百余国に分立する ○倭国大いに乱れる	須玖遺跡(福岡県春日市) 立岩遺跡(福岡県飯塚市堀田) 三雲遺跡(福岡県糸島郡)		
古墳時代	西晋		○邪馬台国の女王卑弥呼、魏の皇帝より銅鏡100枚を賜う	登呂遺跡(静岡県静岡市)		300
	東晋	三国時代	○厚葬思想による高塚が営まれる			
古墳時代	南北朝	三国時代	○このころ、大和朝廷による統一国家がはじまる ○任那日本府の設置 ○倭の五王の時代 ○(413) このころ、阿知使主、胸形大神に呉国の織女兄媛を奉獻する	箸墓(奈良県桜井市) 椿井大塚山古墳(京都府山城町) ○前方後円墳が作られ、鏡・武具などが副葬される	岩上祭祀 ○18号遺跡 ○17号遺跡 ○16号遺跡 ○19号遺跡 ○21号遺跡	400
			○(527) 筑紫国造磐井（いわい）が反乱する	応神天皇陵(大阪府羽曳野市) 仁徳天皇陵(大阪府堺市) 江田船山古墳(熊本県菊水町) 新沢千塚126号墳(奈良県川西町)	岩陰祭祀 ○7号遺跡 ○8号遺跡 ○4号遺跡 ○6号遺跡	
奈良時代	隋	南北朝	○このころ、新羅との交渉さかんになる ○(607) 小野妹子を隋につかわす ○(630) 第1回遣唐使 ○(645) 大化の改新 ○(672) 壬申の乱	○横穴式石室が営まれる。須恵器の製作もこのころか ○乗馬の風習起り、副葬品に馬具がみられるようになる	津屋崎古墳群(福岡県津屋崎町)	500
			○このころ、古墳の築造終わる ○各寺院の建立さかんとなる	宮地岳古墳(福岡県津屋崎町) 高松塚古墳(奈良県明日香村)	半岩陰・半露天祭祀 ○5号遺跡 ○20号遺跡	
平安時代	唐	新羅	○(710) 平城遷都 ○(752) 大仏開眼供養 ○(781) 宗像三神を辺津宮に合祀する ○(794) 平安遷都	大安寺(奈良県奈良市) 観世音寺(福岡県太宰府町) 小治田安万侶墓(奈良県都祁村) 大飛鳥祭祀遺跡(岡山県笠岡市) 神島祭祀遺跡(三重県鳥羽市)	露天祭祀 ○1号遺跡 ○3号遺跡	700
			○(894) 遣唐使派遣を中止する			
鎌倉時代	宋		○(1274) 蒙古襲来			1100

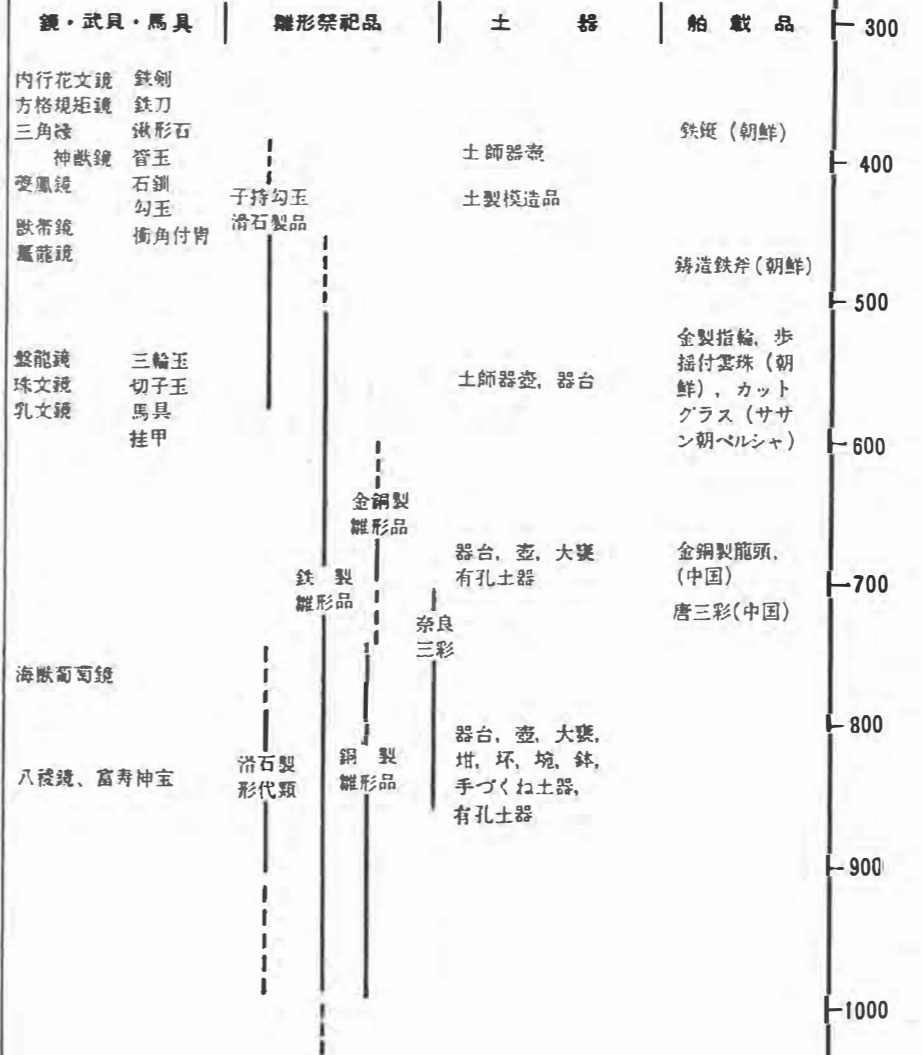


写真1



F号巨岩上の21号遺跡 祭壇復元（『宗像沖ノ島』図版PL.100-③より）

最古段階の遺跡は、上下二つの巨岩の頂上や隙間に長方形の石組みの祭壇を設け、奉獻品を並べ、祭祀の後、小石で奉獻品を全て覆い隠していました。

I. 岩上祭祀（写真1）
四世紀後半～五世紀中頃（古墳時代前期～中期）

沖ノ島の祭祀形態の変遷
沖ノ島南西部の標高八十～九十メートルの谷地形部に、十二個の巨岩が林立し、二十三箇所の遺跡が点在しています。谷の出口には沖津宮が鎮座しています。沖ノ島の祭祀は四世紀後半～九世紀の約五百年間に、次のように変遷しました。

岩上祭祀の遺跡は、二つの巨岩に集中しています。最古段階の遺跡で、上下二つの巨岩の頂上や隙間に長方形の石組みの祭壇を設け、奉獻品を並べ、祭祀の後、小石で奉獻品を全て覆い隠していました。

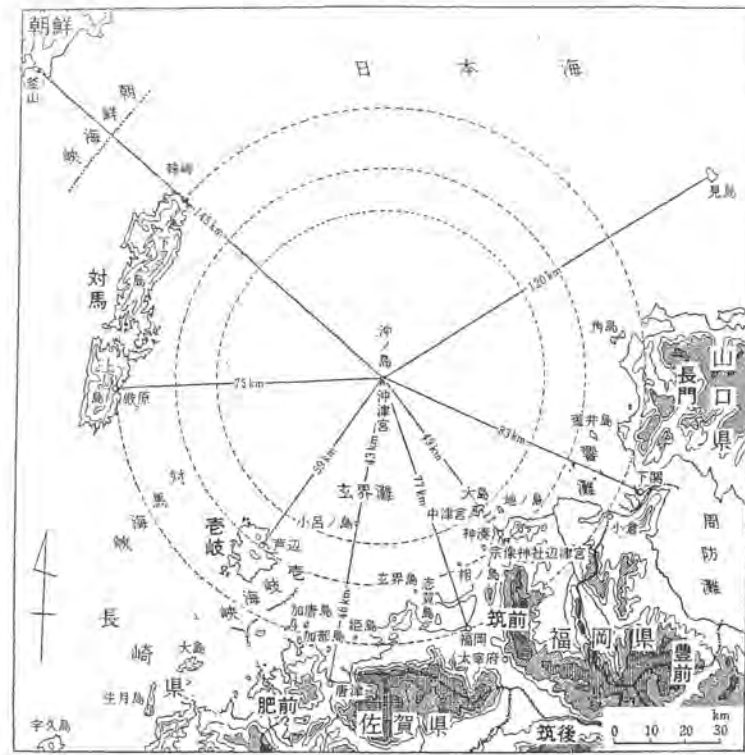
中国や朝鮮からの渡来品（三角縁神獣鏡を含む）が出土しているため、沖ノ島祭祀は最初から東アジアとの交流があったことが窺えます。最古の十八号遺跡につづく二番目に古い遺跡（十七号遺跡）は四世紀末のもので、これは上下二つの巨岩の隙間にあります。下側の巨岩の上に祭壇が設けられ、五～六本の鉄刀類が掛け渡され、その上に二十一面もの銅鏡が重ね置かれ、祭祀の後、やや大きな石で全て覆い隠されていました。その上を上側の巨岩が屋根のように覆っていました。

II. 岩陰祭祀（写真2）
五世紀後半～七世紀（古墳時代中期～後期）
祭壇が地上に降り、巨岩の傾斜部が庇となる岩陰の地上に奉獻品を置くようになりました。「巨岩そのものがご神体になった」と考えられます。外来系奉獻品では新羅系の遺物やペルシャ系のガラス碗などが発見されています。

写真2



G号巨岩と6号岩陰遺跡（『宗像沖ノ島』図版PL.89-①より）

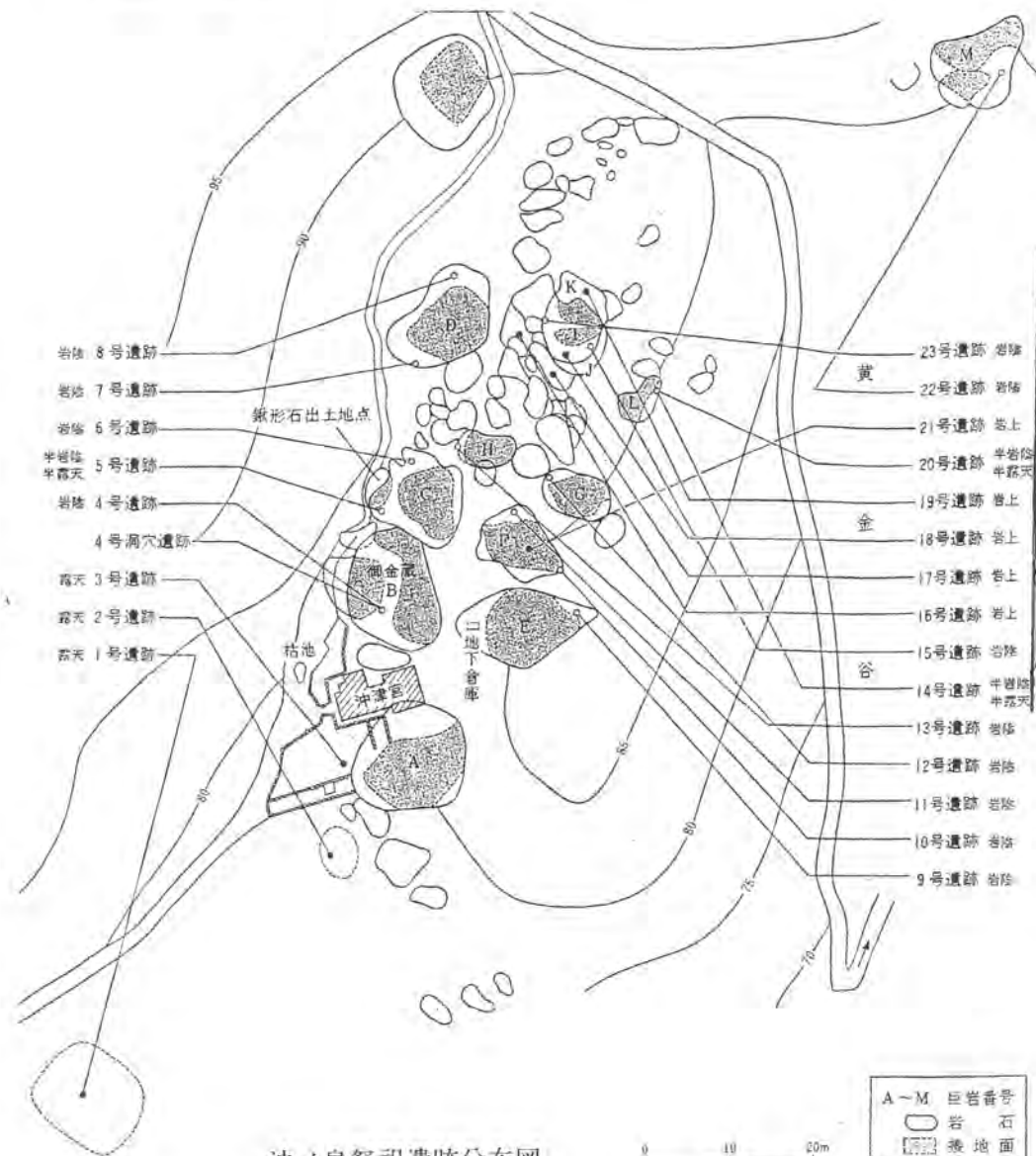


沖ノ島位置図



沖ノ島地形図

- 断崖 断崖
- 石海岸 石海岸
- 階層 階層
- 石家跡 石家跡
- 神鏡跡 神鏡跡
- 井戸跡 井戸跡
- 樹林 樹林
- 草竹 草竹



沖ノ島祭祀遺跡分布図

発掘遺跡区分

- I 岩上祭祀 計5
16・17・18・19・21
- II 岩陰祭祀 計12
4・6・7・8・9・10・11・12
13・15・22・23
- III 半岩陰半露天祭祀
5・20(+14) 計2(+1)
- IV 露天祭祀 計3
1・2・3

『宗像沖ノ島』刊

III 半岩陰・半露天祭祀(写真3)

七世紀後半〜八世紀(飛鳥時代〜奈良時代) 祭祀の場所は巨岩のそばですが、岩陰部の大半を離れ、大半は露天部に移りました。奉獻品の多くは雨ざらしとなります。原始的な巨岩信仰を脱していく過程に位置付けられます。 須恵器類が多くなり、唐三彩などの中国系の遺物、金属製の雛形品(ミニチュア)が発見されています。 写真3は、粉々の状態で発掘された甕や須恵器を修復し、奉獻状態を復元したものです。甕には玄界灘の海水から採れた塩が収められ、器台の上に乗せられていました。



(宗像沖ノ島 図版PL.73より)

IV 露天祭祀(写真4)

八世紀後半〜九世紀(奈良時代中期〜平安時代前期) 巨岩から完全に離れ、露天の平坦地に十メートル四方ほどの大きな祭壇を設け、祭壇の回りには岩の破片を敷き、壇上に奉獻品を置いていました。代表的な遺跡は1号遺跡です。沖津宮の参道階段を登りつめたそばの緩やかな斜面一帯にあたり、今では雑木林と化しています。 大量の須恵器、奈良三彩の蓋付き小壺、金属製の雛



(宗像沖ノ島 図版PL.74より)

形品、滑石製形代と言われる馬形、人形、舟形などが出土しています。 前段階までの遺跡からは一回きりの祭祀遺物が出土していますが、1号遺跡からは複数回分の祭祀遺物が集中出土しています。しかも遺跡の上面は引掻き回されたような状態です。以上から、「祭壇として複数回使用された後、遺物を廃棄する場所が変わっていった」と推定されます。転換点は八〜九世紀頃沖津宮が造られた頃でしょう。それ以降、社殿で祭祀をし、遺物は社殿近くの1号遺跡にまとめて廃棄されたのでしよう。

1号遺跡はかなり掘り進めても底に達せず、全体の三割ほどしか発掘できていませんが、八一八年(弘仁九年) 鑄造の皇朝錢「富寿神宝」が出土したので、露天祭祀が九世紀まで継続していたことが分かります。八九四年、遣唐使廃止により大陸との交流がなくなつて以降、沖ノ島祭祀は終了したと見られます。

沖ノ島から多数の銅鏡(写真5)が出土する意味

「地的宗儀」から「天的宗儀」へ 沖ノ島祭祀は四世紀後半(古墳時代)に始まりますが、それ以前の弥生時代、人々は「神靈は大地に宿り、穀物や人間などの生命を育んでいる」と考えまし



三角縁二神二獣鏡一沖ノ島18号遺跡

写真5 た。これを「地的宗儀」と言います。 銅鐸、銅剣、銅矛が地中から出土するのも、弥生時代の祭祀が「銅器類は地中の神靈が宿る依代。普段は地中に埋納し、神靈を地上に迎えて祭る時、これを掘り出す」という考えに基づいていたからです。実際、北九州市重留遺跡で発掘された銅矛は、同じ場所でも六回、埋納と掘り起こしを繰り返した形跡がありまし

た。七回目に地中に埋められた後、現代まで放置されたのです。

ところが、三〜四世紀になると「天的宗儀」がシベリア方面から朝鮮半島を経て日本に伝わりました。これは「神靈は天にいて、地上の依代に降臨する」と考えるものです。後世の神道では斎竹を四隅に立て、真ん中に神が降臨する依代を置きます。現代の神道は「天的宗儀」から発展したと言えます。先述のI段階の21号遺跡が「天的宗儀」に基づいていることも、改めて確認されます。

ヤマト王権は新しく伝来したこの「天的宗儀」を採用し、武器や銅鐸ではなく銅鏡を用いる祭祀に変わりました。ここで思い出すのが、沖ノ島では最古の遺跡からも銅鏡が出土し、現在五十九面の銅鏡が確認されていることです。ただし、盗掘されて個人の所蔵品となった沖ノ島出土の銅鏡などもあるように、それらを含めると、七十面程度はあったと考えられています。つまり、沖ノ島祭祀は最初からヤマト王権による国家型祭祀で、原始神道期の「天的宗儀」に基づいて行われていました。沖ノ島は九州における「天的宗儀」の最古例であったと評価されています。

大島の御嶽山頂上の遺跡と宗像三女神を実証

最近、大島の御嶽山頂上にある祭祀遺跡の発掘調査が行われ、沖ノ島祭祀のIII〜IV段階(飛鳥・奈良時代以降、七世紀後半〜九世紀)に相当する品物が多数出土しました。

イコモスから「沖ノ島の四件以外は取り下げるように」という勧告が出た時点では、御嶽山の調査結果が含まれていなかったため、世界遺産の中に御嶽山は入っておらず、冒頭で述べた通り、イコモスからは三社説も否定されました。しかし、御嶽山の調査によって、七〜八世紀には宗像三女神(沖津宮、辺津宮、中津宮)の信仰が成立していたことが立証されました。

古墳時代の祭祀(I〜II段階)の出土品

沖ノ島祭祀は、古墳時代の祭祀(I、II段階)と、奈良時代以降の律令型祭祀(III、IV段階)に大別されます。出土品からその変化が見られました。

沖ノ島の出土品の特徴は、最初から国際性が豊かであることです。国際性は世界遺産登録の条件の一つで、沖ノ島が高く評価された点でした。実際、一九五七年、第二次調査に同行した毎日新聞の記者は、沖ノ島に「海の正倉院」というキャッチフレーズを付け、以後、沖ノ島の代名詞になりました。

海外との交流を示す遺物は、I段階でも出土しています。中国系の銅鏡、新羅系の鉄錠（鉄器の原料になる鉄板）などです。
II段階になると、銅鏡や鉄錠などは急減し、金銅製馬具（図）、金製指輪（写真6）、铸造鉄斧などと交替

図 新羅製金属遺物

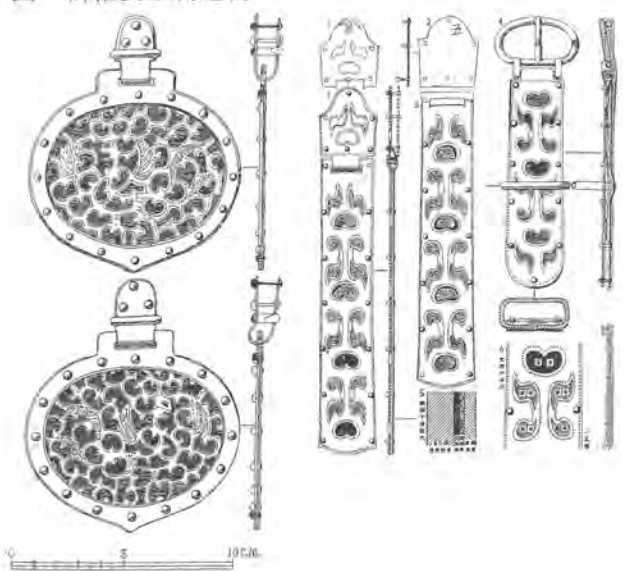


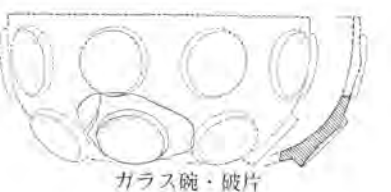
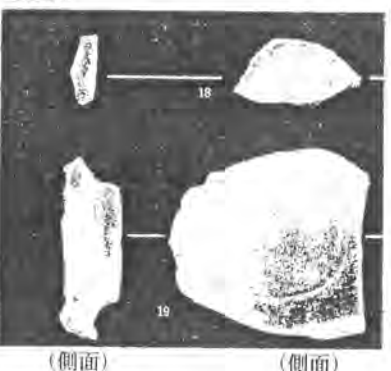
写真6 金製朱詰指輪 (2倍)



します。中でも金銅製帯先金具の透かしの部分に玉虫の羽根や雲母の薄板が嵌め込まれ、非常に凝った作りです。同様のものが慶州にある新羅の古墳からも多数出土しています。沖ノ島から新羅系遺物が多数出土するのは、ヤマト王権の朝鮮半島への進出と関係するのでしょうか。

面白いのは、浮出し円文のガラス碗の破片が出土したことです（写真7）。正倉院の紺瑠璃杯は凹めた円文です。我々が沖ノ島でこのガラス碗を調査していた頃、東京大学の調査団（江上波夫団長）がイランの遺跡で、よく似た浮出し円文のガラス碗を発見しまし

写真7



た。同調査団は調査時にも、同様なガラス碗を見つけています。これは正倉院の白瑠璃碗や安閑天皇陵出土のガラス碗とは異なるものです。これらをきっかけに研究が進んだ結果、沖ノ島のガラス碗はササン朝ペルシャからの伝来品と推定されました。
ガラス器は、五、六世紀頃の新羅の古墳からも多数出土しています。その多くがローマからシペリア寄りの「草原の道」を経て新羅に入ったものです。しかし、浮出し円文のガラス碗は新羅からは出土しておらず、中国・北周の李賢夫婦墓（墓誌銘から五六九年と知られる）から出土していることから、沖ノ島のガラ

ス碗は、ササン朝ペルシャから、中央アジアを経て中国に入り、沖ノ島に伝来したと推定されます。
なお、II段階後半には新しい祭祀の誕生を示す金属製の酒食容器、紡織具、人形などの雛形品が出現します。

古墳時代末〜律令型祭祀（Ⅲ〜Ⅳ段階）の出土品

沖ノ島のIII段階は、飛鳥・奈良時代に対応します。海外との交流を示す遺物では、新羅系遺物が姿を消し、中国系遺物が現れます。その一例が金銅製の龍頭一對（写真8）です。龍頭は、敦煌石窟の壁画では貴人の頭上にさしかけた傘の柄の先に付いていますが、沖ノ島出土の龍頭は、「五色幡二竿の柄の先に付いていた」と推定されます。その根拠は「日本書紀」の「欽明二十三年八月条」に「大伴狭手彦が高句麗の王宮に攻め込み、珍宝類を持ち帰り、天皇や蘇我氏に献上した」と記録され、珍宝類として「五色幡二竿」が出てくることです。

この龍頭一對が出土した遺跡からは、唐三彩の長頸瓶の破片（写真9）も出土しています。これは近年の中国側の研究から、七世紀後半の「初期唐三彩」と推定されています。
またIII段階以降、奉獻品の主体は須恵器が占めるよ

写真8

金銅製龍頭 I 対 (5号)



うになります。金属製の雛形品（酒食容器、紡織具、人形、五弦琴など）も増えます。IV段階になると、滑石製の人形、馬形、舟形が出土します。航海における人と舟の安泰を祈り、海神の加護を期待し、帰国後には感謝を捧げていたのでしょう。

こうした雛形品の登場は、古墳時代とは異なる、新しい「律令型祭祀」が生まれたことを示します。この新しい祭祀は、九世紀以降の伊勢神宮関連の儀式帳や「延喜式」に記された祭祀に繋がっています。紡織具・楽器などの雛形品は、後の伊勢神宮神宝の紡織

写真9

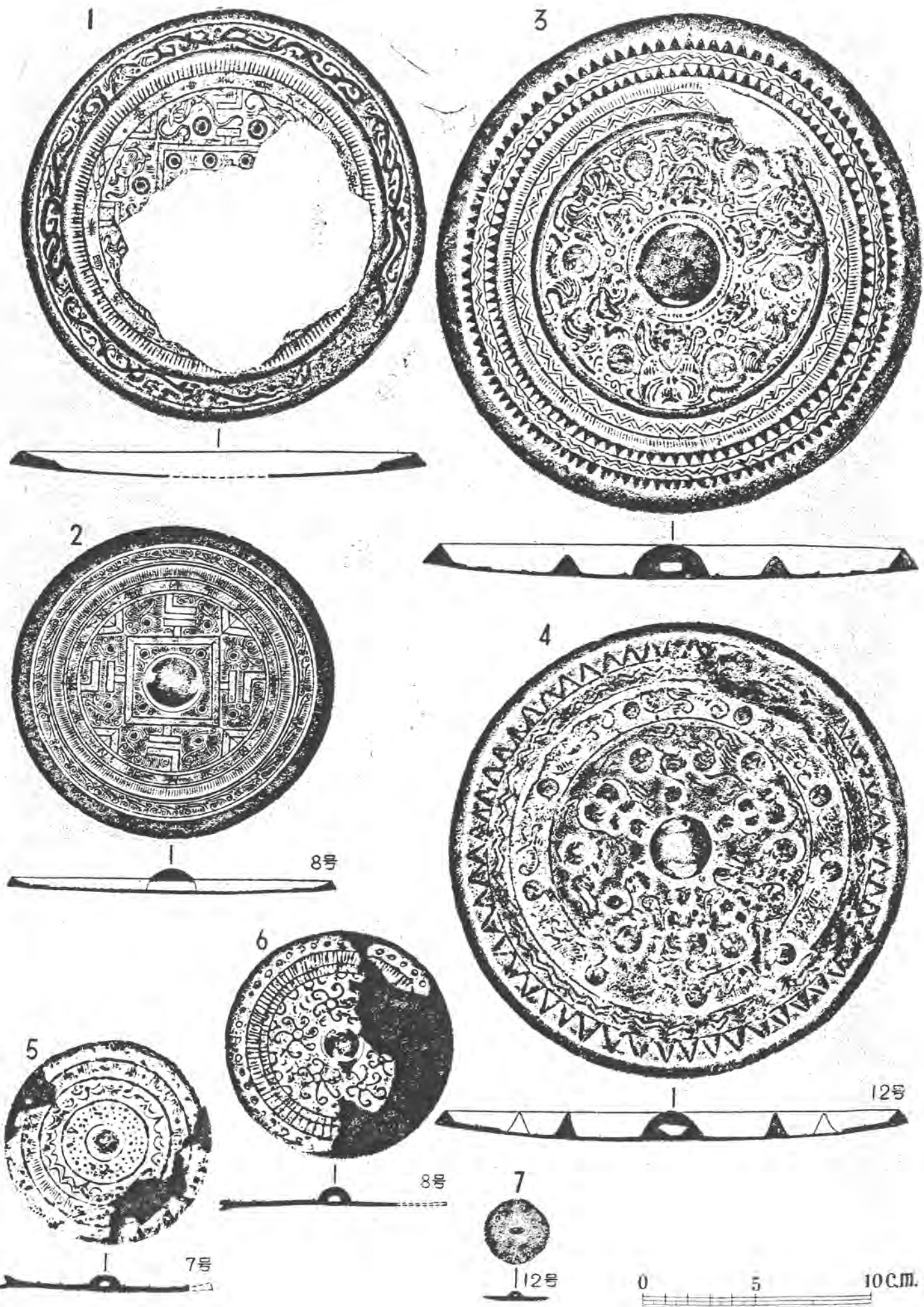


唐三彩長頸瓶の口縁部分 (沖ノ島5号遺跡出土)

うご質問がありました。私どもは伊勢神宮と沖ノ島祭祀の関連について説明し、「日本書紀の記述は伊勢神宮に關しても参考される」とお答えすると、昭和天皇は安堵なされたご様子でした。

具・楽器類に繋がっています。

余談ですが、戦後、「日本書紀」や「古事記」が実証主義の立場から批判され、特にその神話の部分が「史実でない」と疑う説がありました。昭和天皇は「日本書紀」に記された伊勢神宮の成立や祭祀に不安を覚えられたようでした。一九七八年、宮中で昭和天皇に沖ノ島についてご進講した際、「日本書紀は信用できるのか」とい



沖ノ島祭祀の歴史的意義
 日本の古代祭祀遺跡で、数百年にもわたって継続し、その変遷が明らかにできる例は沖ノ島しかありません。
 さらに祭祀の内容を見ると、I段階では銅鏡が類を見ないほど多く、II、III段階でも新羅系遺物、ペルシヤ系のガラス碗、中国系遺物など、海外からの貴重な品が出土し、後の律令型祭祀の原型も見られます。IV段階には奈良三彩が出土しています。最初から一貫して、ヤマト王権の関与した国家型祭祀であることが窺われるのです。ヤマト王権の主宰する国家型祭祀には、「大王直祭型」と「委託祭祀型」があります。沖ノ島でも当初は「大王直祭型」で、勅使が派遣されていました。「雄略紀九年二月条」に、凡河内直香賜と采女が胸方（宗像）神に派遣された記事があります。
 このように、沖ノ島は日本の古代祭祀遺跡の最上ランクに位置付けられ、豊かな国際性とともに、世界遺産としても高く評価されたのです。
 ※地図・写真・図は調査報告書・著者撮影提供による
 (福岡大学名誉教授、九大・文博・文・昭32)
 (本稿は平成30年1月22日午餐会における講演の要旨であります)
 冲ノ島祭祀の歴史的意義
 一九二八年五月一日発行
 冲ノ島祭祀の歴史的意義

[TABLE 30] 沖ノ島祭祀遺跡出土鏡一覧

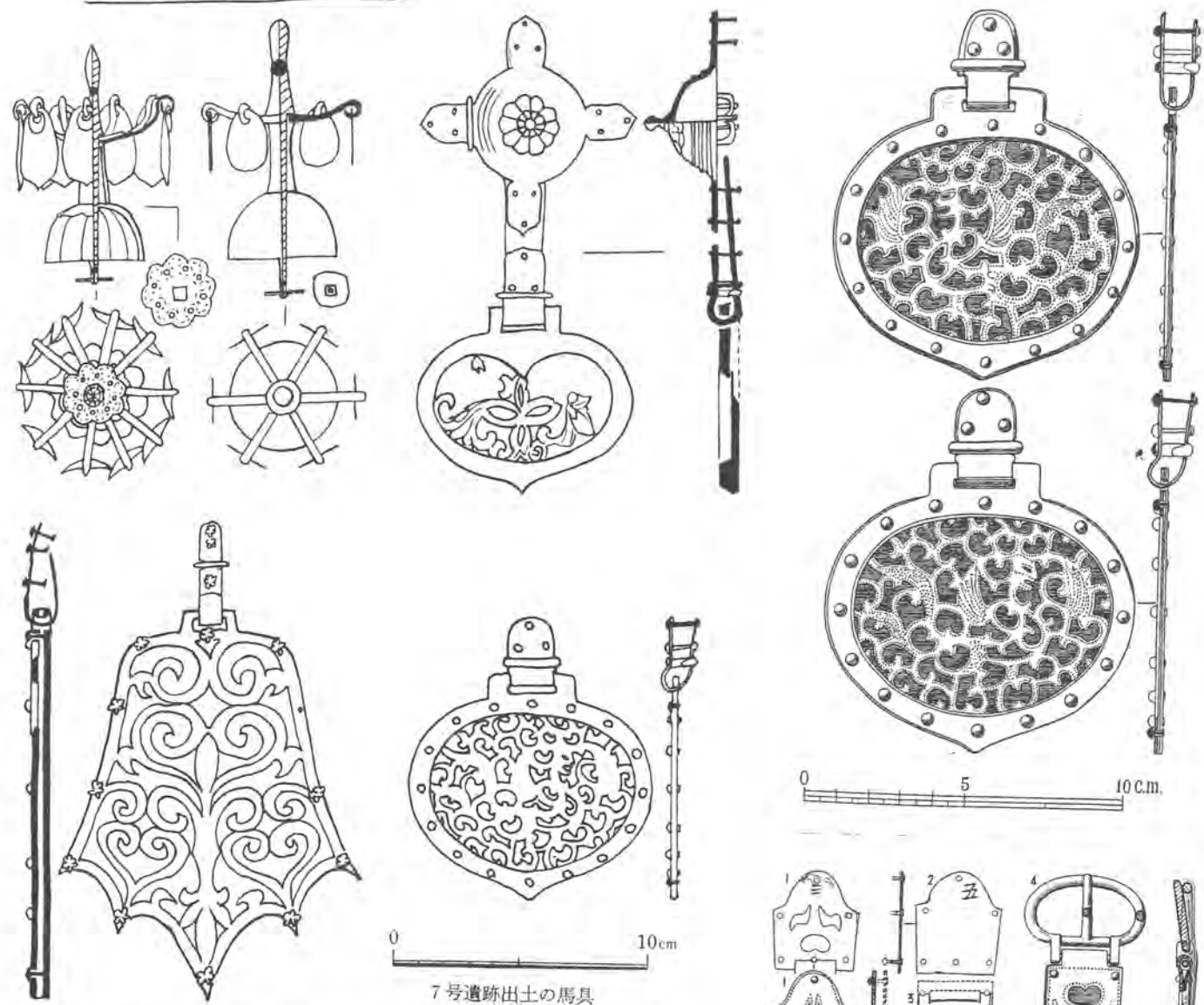
	計	船載鏡	仿製鏡					
			三角縁神獸鏡	方格鏡	連弧文鏡	罍龍鏡	その他	
岩上遺跡	16号	4	0	1	1	1		1
	17号	21	0	7	3		2	6
	18号	9+3	2	4+2	+1			3
	19号	2			1			1
	21号	4+2	1+2				1	2
岩陰遺跡	8号	3	1		1			1
	7号	2						2
	15号	1						1
	23号	1						1
	4号	2						2

沖ノ島遺跡出土三角縁神獸の構成 (田中晋作氏による)
 (A~Dは船載鏡、I~Vは仿製鏡の分布を示す)

遺跡名	A	B	C	D	Ia	Ib	Ic	IIa	IIb	IIc	IIIa	IIIb	IVa	IVb	IVc	V
16号遺跡														1		
17号遺跡							1								1	1
18号遺跡			1								1		1	1		
18号遺跡 (推定)										1						
御金蔵遺跡 (推定)				1												
沖ノ島遺跡 (推定)																1

(『宗像・沖ノ島』524頁)

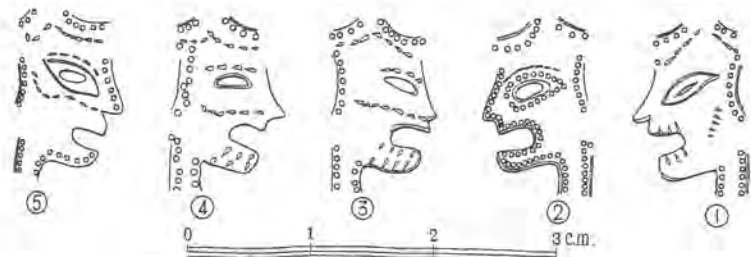
新羅製金属遺物



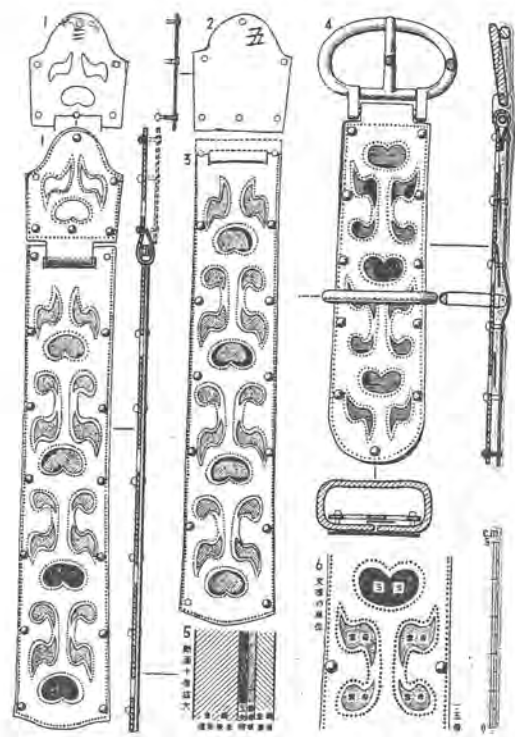
7号遺跡出土の馬具



馬人拓影(七号)



馬人の顔面

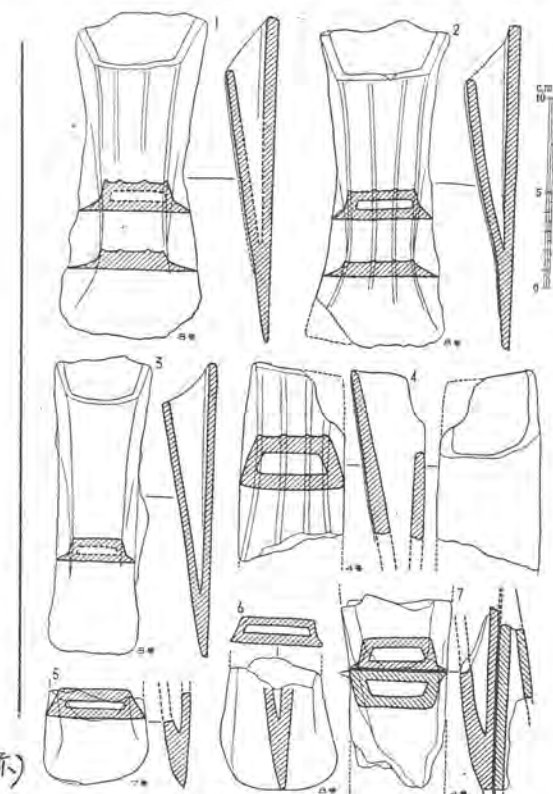


新羅製金属遺物

金製朱詣指輪(3倍)

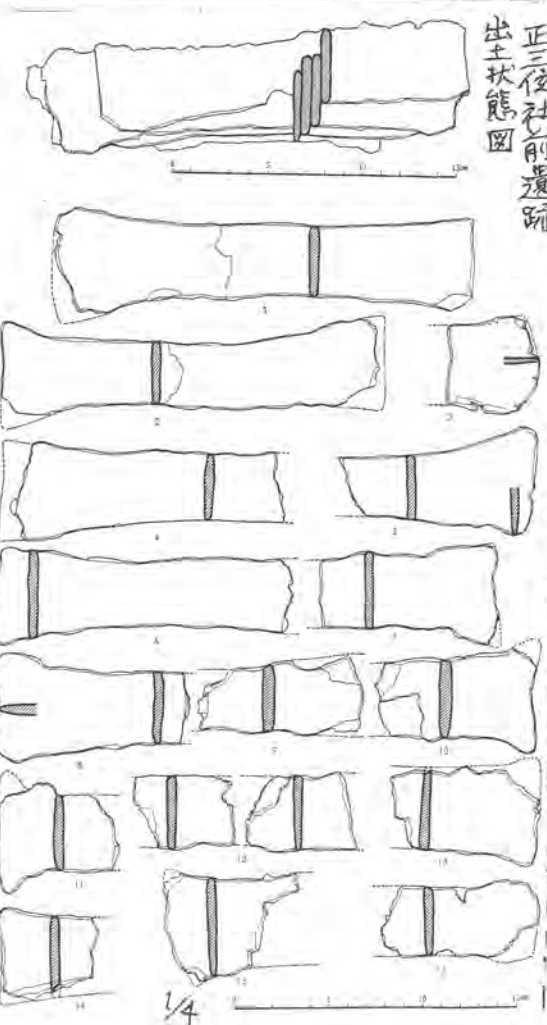


(7号遺跡)

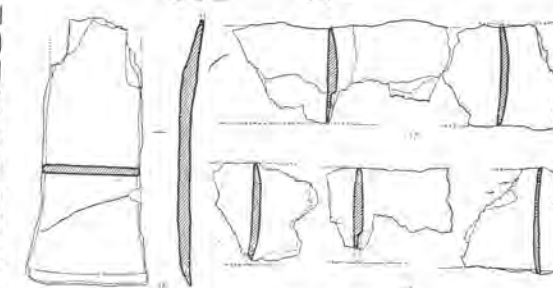


鑄造鉄斧(7号遺跡)

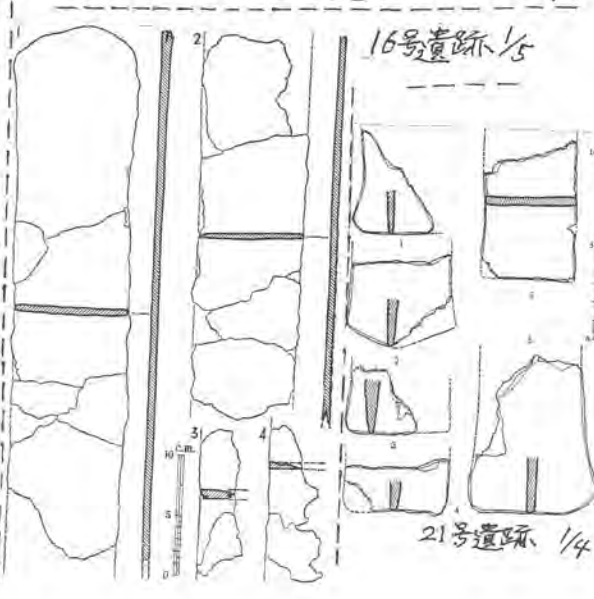
鉄鋌



正位社前遺跡出土状態図



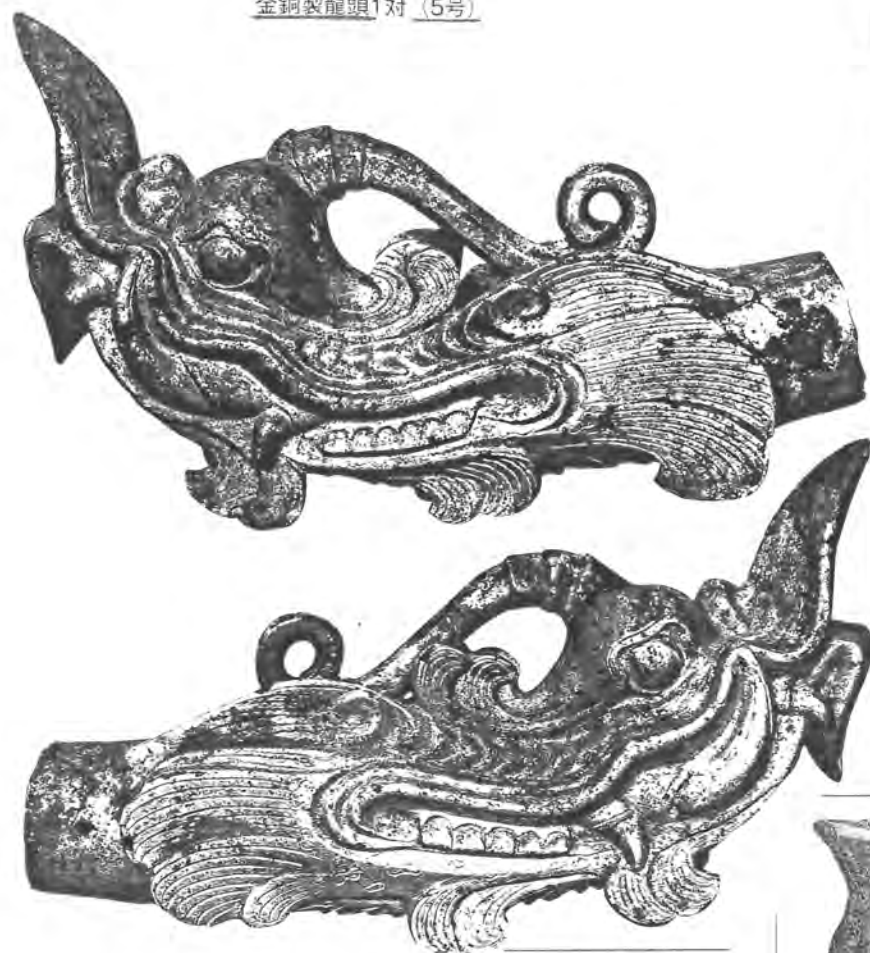
6号遺跡 1/4



16号遺跡 1/5

21号遺跡 1/4

金銅製龍頭1対 (5号)



人形 (5号)



1~4金銅製
5・6鉄製

奈良三彩有蓋小壺 (1号)



金銅製龍頭・金属製人形・器台と壺(5号遺跡)と奈良三彩有蓋小壺(1号遺跡)
(『宗像沖ノ島』II PL. 39・76・77、『沖ノ島調査概報 I』53頁より)



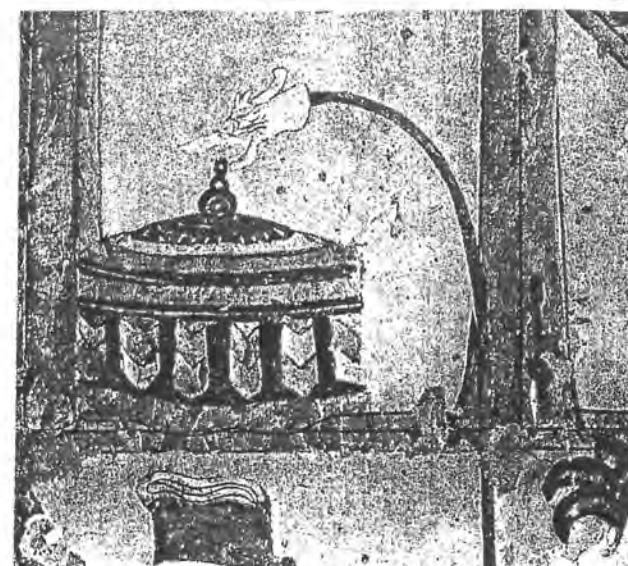
人物刻描器台と壺 (5号)



上・天龍山石窟龕飾(東魏) 長29.0cm (出光美術館蔵)
上・天龍山第2窟龕飾(東魏) 『天龍山石窟』(1922)より



金銅製龍頭 全長65cm 慶尚北道榮州出土 (統一新羅時代)



敦煌莫高窟159窟東壁面——「維摩變」供養婦人像(中唐)
〔敦煌文物研究所編『敦煌壁畫』(1959、北京)より〕

中国・朝鮮の龍頭関係資料

敦煌莫高窟159窟

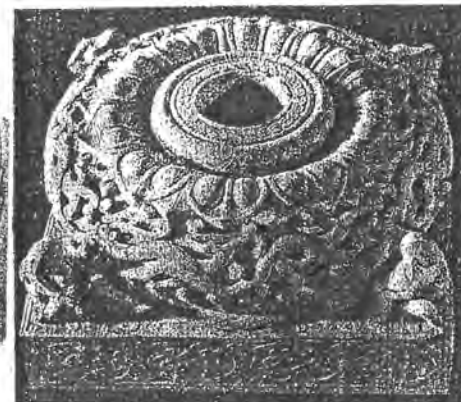


上段
中段
下段



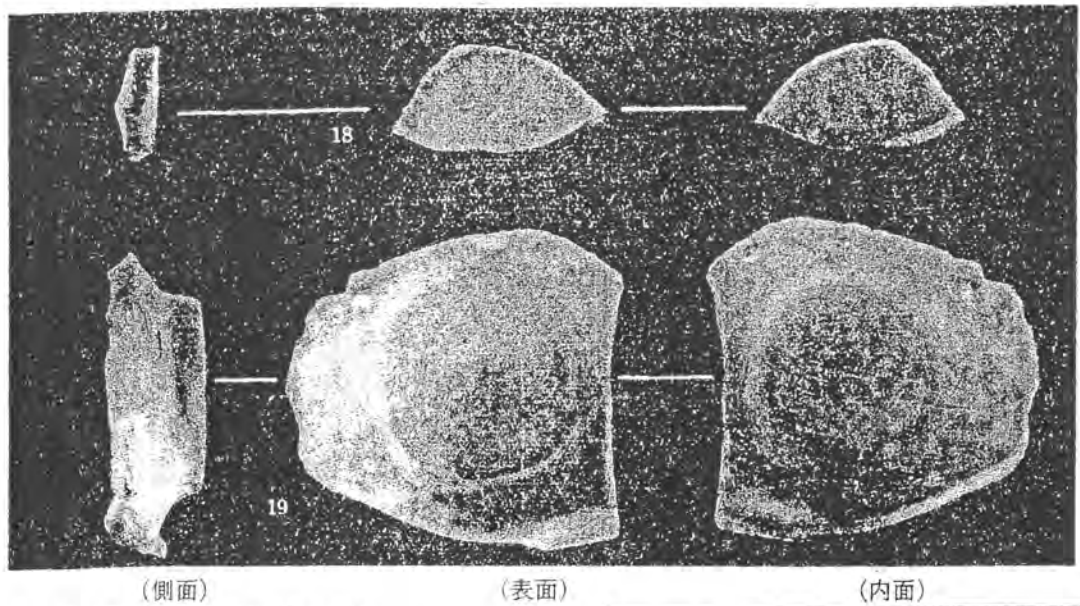
金銅製透彫香炉状品 (伝沖ノ島御金蔵 [4号遺跡])

金銅製透彫香炉状品

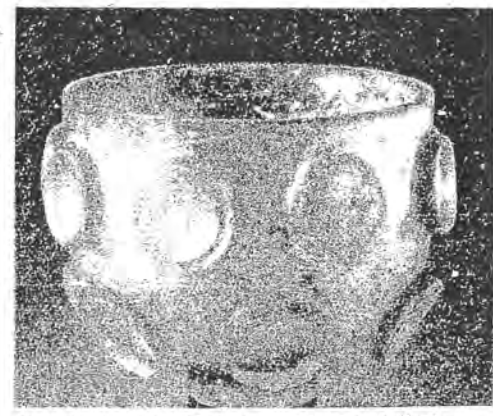
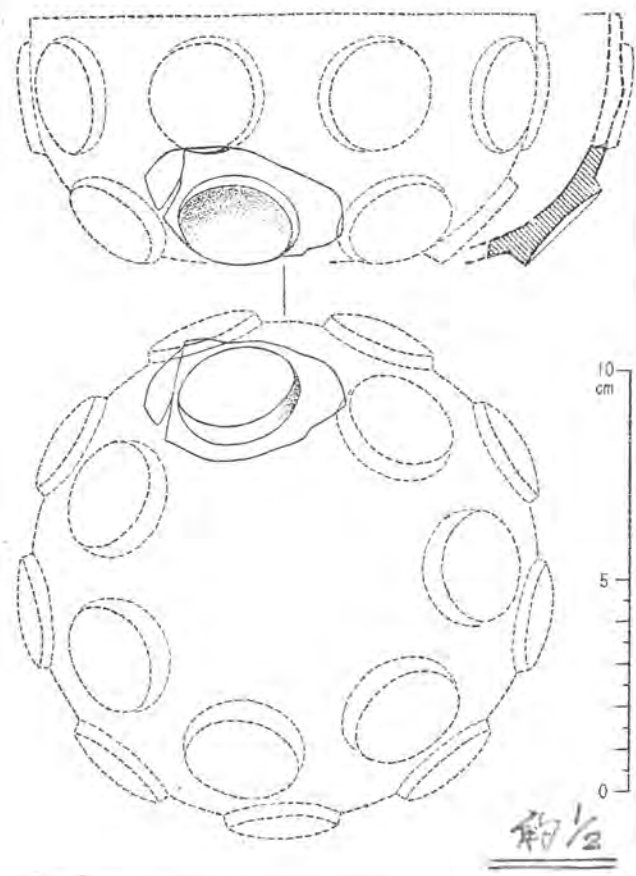


北魏司馬金龍墓柱礎(石彫)
(文物1972-3)

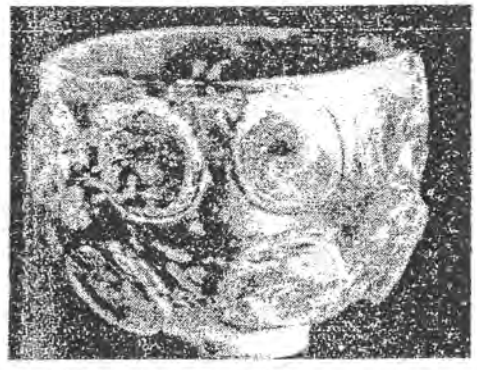
484年A.D.



1. 沖ノ島8号遺跡出土ガラス碗
(上・破片写真 下・復元実測図)



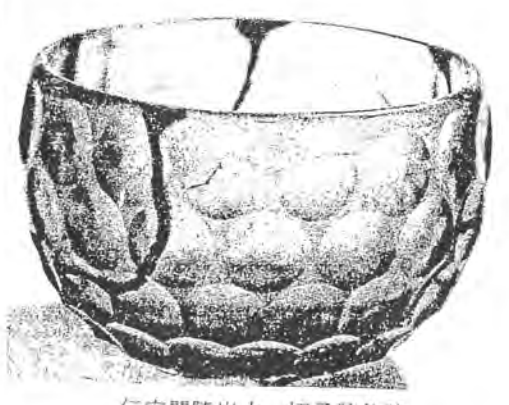
2. イラン出土浮き出し円文切子裝飾碗
MIHO MUSEUM蔵



3. 中国・北周李賢夫婦墓
[569(天和4)年没]



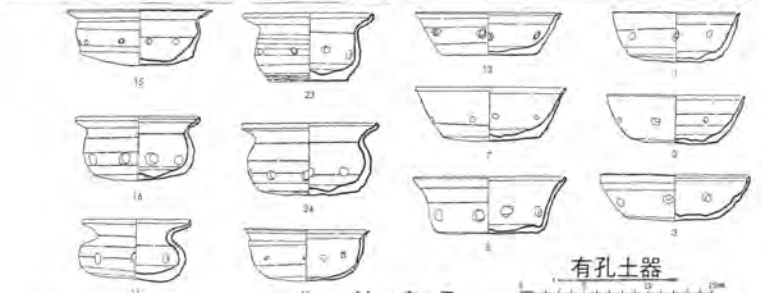
奈良正倉院伝世品(左・紺瑠璃杯 右・白瑠璃碗)



佐安閑陵出土 切子裝飾碗
535年崩御

ガラス容器とその関係資料

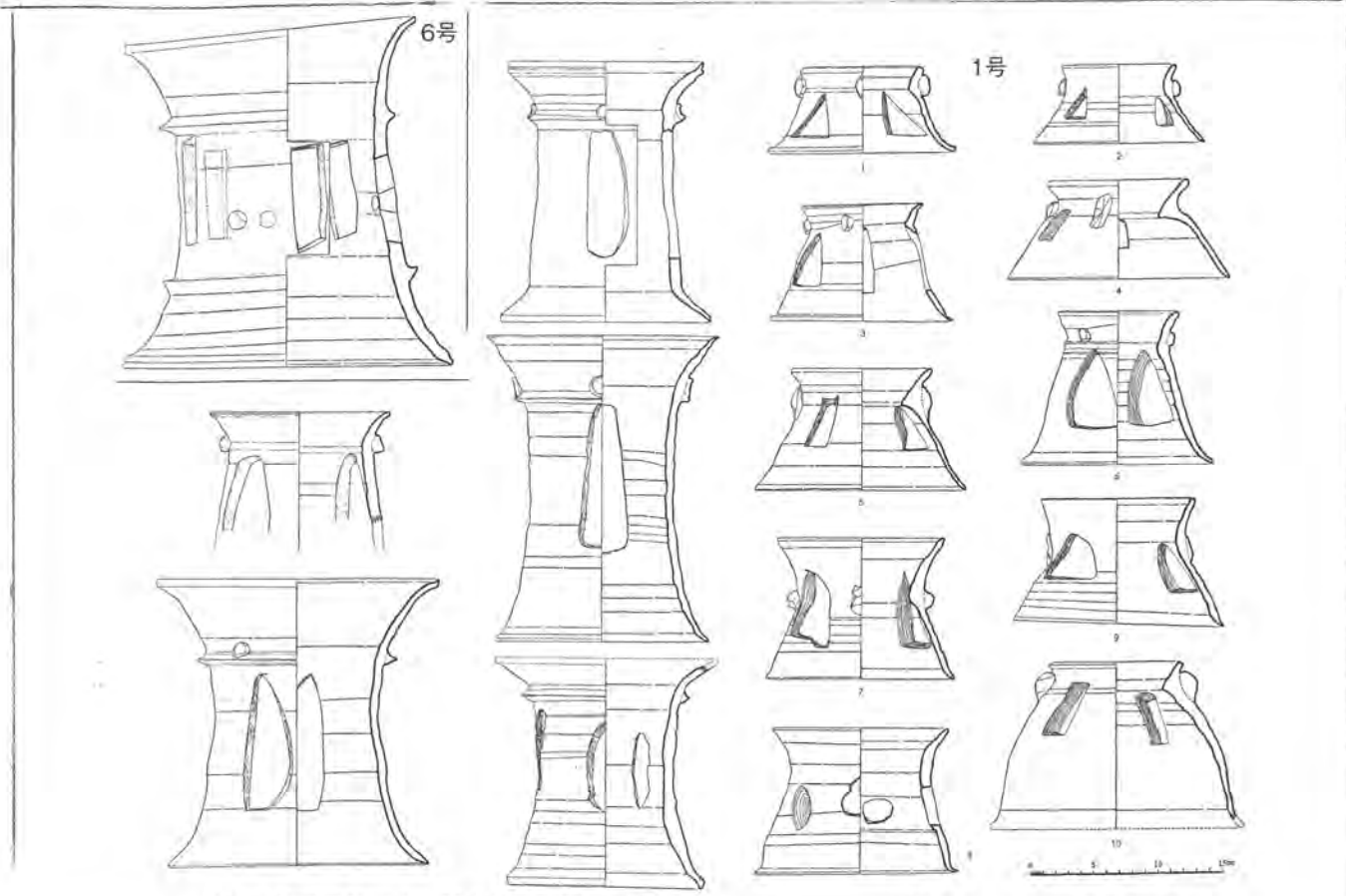
(山西省太原唐墓出土) 高24.0cm



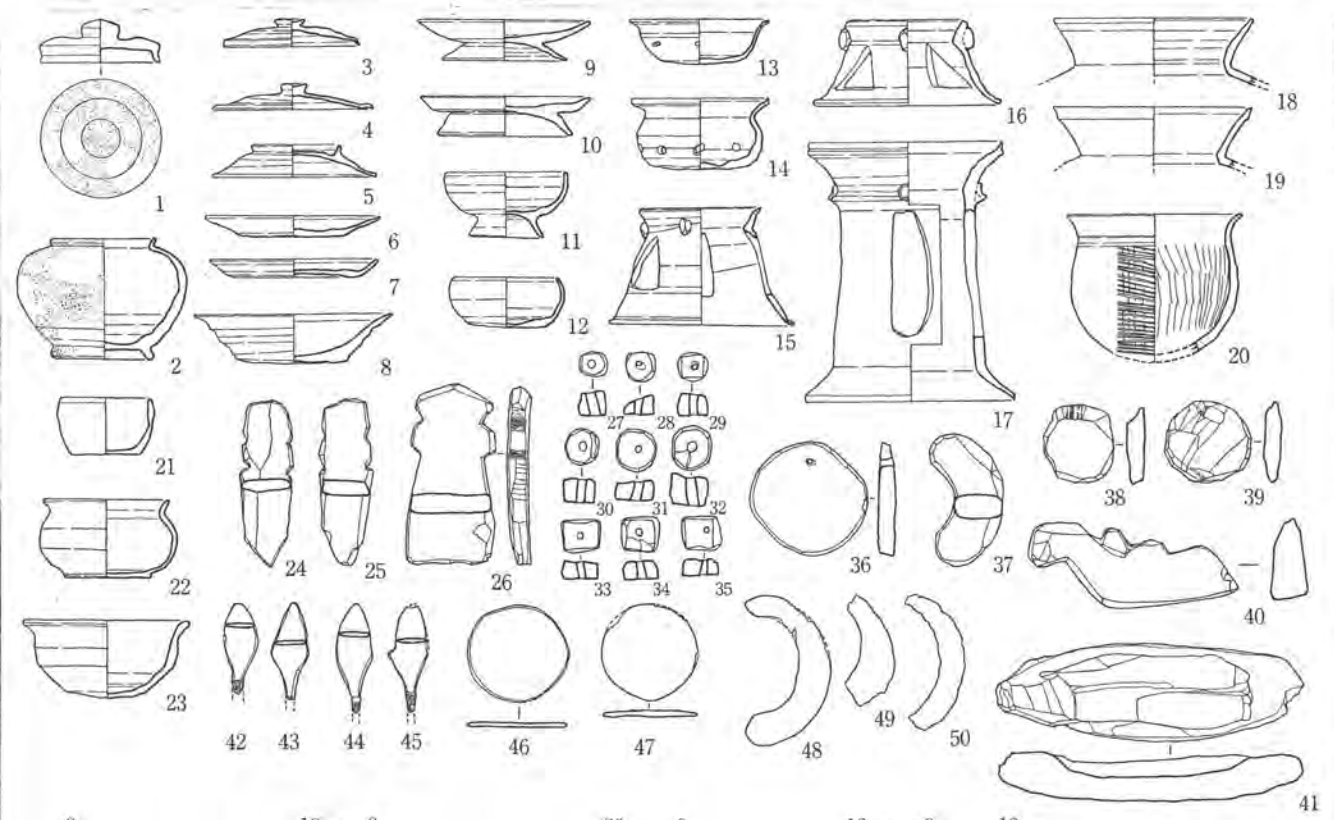
沖ノ島独自の須恵系器
奈良地域での製作か

5号遺跡出土 唐三彩長頸瓶
参考・中国出土唐三彩瓶
沖ノ島出土須恵系器台 約1/6
有孔土器

人物刻画 長脚式器台



沖ノ島祭祀遺跡出土 器台形須恵器(1/6) (『沖ノ島』・『宗像沖ノ島』Iより)



沖ノ島1号遺跡出土遺物(1・2: 1/3, 3~17・20~23: 1/6, 18・19: 1/8, 20~24: 1/4) (御嶽山遺跡出土品と同種品を選別して示す) (『大島御嶽山遺跡』より)

- II: 岩陰祭祀段階**
- 4号遺跡 雛形鉄刀・雛形鉄刀子・雛形鉄鑿形品・雛形鉄斧
- 6号遺跡 雛形鉄刀・雛形鉄斧・雛形鉄矛・雛形鉄鉞・雛形鉄製儀鏡・金銅製麻笥・金銅製細頭壺・雛形銅鐸状品
- 7号遺跡 雛形鉄刀
- 8号遺跡 雛形鉄斧・雛形鉄刀子
- 22号遺跡 雛形鉄刀・雛形鉄矛・雛形鉄斧・雛形鉄円板・雛形金銅円板・金銅製人形・金銅製紡織機関係品(櫛・紡錘・刀杼・膝・貫・反転)・金銅製容器(細頭壺)・銅製容器(高杯)・銅製鐸
- 23号遺跡 雛形鉄刀
- III: 半岩陰、半露天祭祀段階**
- 4号遺跡 雛形鉄刀・雛形鉄刀子・雛形鉄鑿形品・雛形鉄斧
- 5号遺跡 雛形鉄刀・雛形鉄刀子・雛形鉄斧・雛形金銅斧・雛形鉄矛・雛形鉄円板・雛形金銅円板・金銅製人形・鉄製人形・銅製容器(細頭壺・高杯)・銅製紡織機関係品(櫛・紡錘・刀杼・膝・麻笥)・金銅製五弦琴・銅製鐸・鉄製鐸
- 20号(+14号)遺跡 雛形鉄刀子・雛形鉄製儀鏡・金銅製容器(杯)
- IV: 半露天祭祀段階**
- 1号遺跡 雛形鉄刀・雛形鉄鉞・雛形鉄矛・雛形鉄円板・銅製円板・銅製筒状品(鐸形品)・銅製紡織機関係品(刀杼・棒・櫛・麻笥・杯・鉢・細頭壺)・金銅製鈴・金銅製舟形 ※滑石製形代(人形・馬形・舟形)

		計
金属製	銅 鏡	36
	銅 皿	4
	銅 櫛	22
	銅 鐸	42
	金銅 鈴	6
	金銅 鏡	1
	鉄 円板	30
	鉄 鉞	52
	雛形 刀子	84
	銅 舟形	5
滑石製	人形	68
	馬形	40
	舟形	108
	勾玉	28
	有孔円板	37
	無孔円板	89
	未製円板	153
	棒状品	238
	その他	595
	坏	70
土器	蓋	51
	鉢	34
	盤	60
	器台	65
	碗皿型	42
	碗形	138
	高杯皿形	8
	碗形	18
	有孔土器	182
	埴須恵	46
土師	16	
壺須恵	5	
土師		
甕	65	
粗製土器	15	
手づくね土器	10	
三彩陶蓋	5	
壺	11	

(『宗像沖ノ島』I報告編65頁より抜粋)

伊勢神宮神宝の種類 (①以下は文献の記載順序、1以下は数量)

種別		内容		別宮(帳)			
大別	小別	儀式帳	延喜式	荒祭宮	伊雜宮	月読宮	滝原宮
紡織具	櫛	①金銅櫛 2 ⑤銀銅櫛 1	①金銅多多利 2 ⑤銀銅多多利 2				
	麻笥	③(金銅)麻笥 2 ⑦(銀銅)麻笥 1	②金銅麻笥 2 ⑥銀銅麻笥 1		②金桶 2	⑬(銀)桶 2	⑤銀桶 1
	加世比(杵)	④(金銅)賀世比 2 ⑧(銀銅)賀世比 1	③金銅賀世比 2 ⑦銀銅賀世比 1		③金杵 1		④銀杵 2
	鐸	⑤(金銅)鐸 2 ⑨(銀銅)鐸 1	④金銅鐸 2 ⑧銀銅鐸 1				
	絡練					①金絡練 2	⑩木絡練 2
	高機					④金高機 1	
	鏡		②御鏡 2		⑧鏡 1	⑤鏡 4	⑥鏡 9
武器	横刀	⑫玉纏横刀 1 ⑬須加利横刀 1 ⑭雑作横刀 20	⑪玉纏横刀 1 ⑫須我流横刀 1 ⑬雑作横刀 20	①大刀 7	⑥黒作大刀 3	①金作大刀 2 ②黒作大刀 6 ③小刀 2	⑧大刀 2
	棒	⑯戈 24	⑯棒 24	③棒 1		⑦棒 4	⑩棒 2
	弓	⑰弓 24	⑰梓弓 24	④弓 2	⑦弓 3	④弓 6	⑦弓 3
	矢	⑱矢 2200	⑱征箭 1490 ⑱箭 768				
	鞞	⑲比女鞞 24 ⑲蒲鞞 20 ⑲革鞞 24	⑲姬鞞 24 ⑲蒲鞞 20 ⑲革鞞 24	(⑤)胡録 3	(⑧)胡録 3	(⑤)胡録 6	(⑨)胡録 3
	柄	⑲柄 24	⑲柄 24		⑨柄 1		
楽器	櫛	⑲櫛 24	⑲櫛 24	②櫛 1		⑥櫛 4	⑦櫛 7
	鈴					⑨鈴 1	⑥鈴 2
	琴		⑳鶴尾琴 1				

(但し、別宮における上記以外の神財は略す)

(井上光貞『古代沖の島の祭祀』『日本古代の王権と祭祀』1984年を改編)

